

## 10 中東欧諸国の日本語教育機関における教育コンテンツの実態調査と共同開発

研究代表者 坂谷内 勝（研究企画開発部 総括研究官）

### ①研究の趣旨，ねらい

本研究の目的は，中東欧諸国及びその周辺国の日本語教育機関を研究対象とし，日本語コンテンツの実態（需要・供給・開発状況とIT環境等）と教師・学習者の日本語コンテンツ活用能力の実態を調査によって明らかにし，そして「実態に即した日本語コンテンツを開発」することである。

特に中東欧諸国を対象とする理由は，教師・教材不足と地理的不便性をITの活用によって克服であると考えられ，かつ，「日本語教育連絡会議」に参加している日本語研究者・教師が本研究に積極的に協力していただけるということが主な理由である。

### ②研究成果の概要

○本研究成果として，新規に開発した日本語教育連絡会議報告書（論文集）のコンテンツについて紹介する。

○日本語教育連絡会議報告書（論文集）の合計冊数は，2007年の第20回で17冊目である。約20年前の報告書は，「民主化」以前の中東欧の日本語教育について知ることのできる貴重な資料を含んでいる。

○コンテンツの収録件数（17冊の報告書・論文集の収録内容の件数）は，各会議開催別に集計すると，表1のようになる。そして，収録内容を「東欧」（中東欧に関する内容）と「一般」（「東欧」以外の内容）に分類して折れ線グラフにすると，図2のようになる。

表1 各会議別の収録件数

第N回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
件数	1	1	1	20	20	32	35	54	53	39	50	34	33	40	29	19	25	22	23	25	556

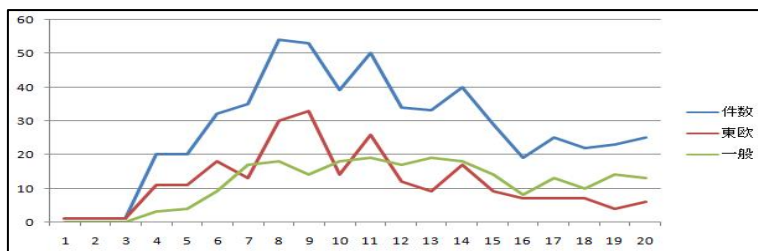


図2 収録内容別件数の推移

○コンテンツの収録内容は、当初「東欧」に関する内容が多かったが、後半は少なくなってきた。国別のコンテンツ収録件数は、図3のとおりである。  
(この図は中東欧以外の国・地域を含む。)

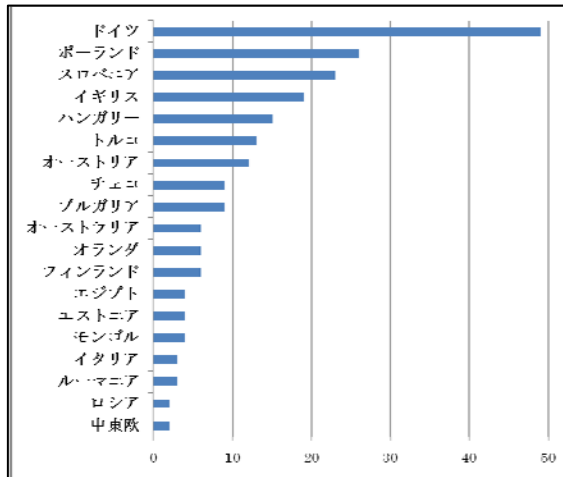


図3 国別収録件数（2件以上）

○「東欧」に関するコンテンツは、中東欧の機関報告、中東欧の教師／学習者に関する論文（発表・報告）、中東欧の言語に関する論文（発表・報告）が多数ある。

### ③中期目標との関連性

○本研究は、政策研究戦略に資するための基礎的・横断的な調査研究等を行うものであり、海外の研究機関との研究・協力活動を通じた交流の推進にも貢献する研究である。

### ④今後の研究予定

○特になし。

### ⑤キーワード

- (1) 教育工学 (2) 日本語教育 (3) 日本語コンテンツ  
(4) 中東欧諸国 (5) ICT (6) コンピュータ

### ⑥関連する先行研究や参考となる研究等

・坂谷内 勝，中東欧諸国の日本語教育機関の利用に供する教育用コンテンツの開発，日本語教育連絡会議論文集，Vol.21，82-85，2009年，査読無。

- ・小松 幸廣，小中学校向けイラスト教材の開発と日本語教育での活用，日本語教育連絡会議論文集，Vol.21，86-95，2009年，査読無。
- ・坂谷内 勝，中東欧諸国の日本語教育機関における教育用コンテンツの調査について，日本語教育連絡会議論文集，Vol.20，20-24，2008年，査読無。
- ・加納 千恵子，外国人の漢字語彙処理能力の評価—WEBによる漢字語彙処理能力テスト—，日本語教育連絡会議論文集，Vol.20，45-52，2008年，査読無。
- ・大曾 美恵子，日常会話における「みたいだ」と「ようだ」—名大会話コーパスに基づく考察—，日本語教育連絡会議論文集，Vol.20，81-85，2008年，査読無。
- ・赤堀 侃司，教材ベースと課題ベースの学習，日本語教育連絡会議論文集，Vol.20，110-117，2008年，査読無。
- ・坂谷内 勝，教育工学と日本語教育，日本語教育132号，58-67，2007年，査読有。
- ・小松 幸廣，坂谷内 勝，イラスト教材データベースの構築，日本語教育連絡会議論文集，Vol.19，43-48，2007年，査読無。
- ・坂谷内 勝，吉岡 亮衛，小松 幸廣，コンピュータ利用による日本語教育用辞書の開発と活用について，日本語学，Vol.25，No.8，2006年，査読有。
- ・坂谷内 勝，海外の日本語教育機関におけるIT整備と利用に関する調査，日本科学教育学会年会論文集，30，201-202，2006年，査読無。
- ・土屋 千尋，外国人児童への教育支援ネットワーク構築—外国人集住地域からの発信，日本語教育連絡会議，2007年8月17日，ハンガリー・カーロリ・ガーシュパール大学。
- ・吉岡 亮衛，季語データベースと俳句投句鑑賞システムについて，日本語教育連絡会議，2006年8月12日，スロベニア・リュブリャーナ大学。
- ・土屋 千尋，地域の日本語教室活動における進行役について，日本語教育連絡会議，2006年8月12日，スロベニア・リュブリャーナ大学。